

ねらい	一人ひとりが全員と関わりながら、みんなで活動を楽しむことができるようにする。		
教科・領域	特別活動	時間	2時間
対象	特別支援学校高等部	人数	7人
活動の流れ	活動名	概要	○留意点 ●指導者の視点
	あいこじゃんけん (カードバージョン)	○ペアでじゃんけんをし、あいこになったら成功。	○じゃんけんの手が出せない生徒への配慮として、グー・チョキ・パーの絵が描かれたカードを用いる。
	絆カード	○8種類の絵が描かれたカードを見せ合い、お互いのカードに共通する絵柄を早く見つける。	●いろいろな人と関わろうとしているか。
	キャッチ	○全員で輪になり、左手は上向き、右手は短いロープを持って、隣の左手の上に垂らす。「キャッチ」の掛け声で、左手はロープをつかみ、右手のロープは逃げる(アクティビティ集参照)。	●エラーを笑い合いながら楽しむ雰囲気があるか。
	たけのこニョッキ	○「たけのこたけのこニョッキ」の合図に続いて、一人ずつ「1ニョッキ」、「2ニョッキ」…と両手を上げて笛をまねる。 ○途中、2人以上の声が重なった場合は、初めからやり直す。全員が重ならず言いきれたら成功。	○事前に順番を決めずに行う。 ●恥ずかしがらずに活動を楽しむことができているか。
	昔話作り	○桃太郎等の昔話の絵を切り取ったカードを一人が1枚ずつ持ち、お話の順番に並ぶ。	○生徒の実態を考慮して、お互いに絵を見合いながらの活動とする。
	流星雨(ゴール型)	○フリースポールを投げ当てることでビーチボールを動かし、離れたところにあるゴールにビーチボールを入れる。	○本来は対戦型の活動だが、共通のゴールに入れる協力型の設定とする。 ●全員がゴールをめざして活動に参加しようとしているか。
	シークレットコード	○スタートとゴールのラインの間に2×3枚のスポットマーカを並べ、秘密の道順を設定する。 ○一人ずつスタートからスポットマーカの上を進んでいくが、道順を間違えたらファシリテーターが合図を出し、一番後ろに並ぶ。 ○次々と挑戦していく中で正しい道順を見つけ、全員がゴール	●道順が分からなくなって止まってしまった人に対して、周囲からどんな声が投げかけられているか。 ●ゴールした人がまだ挑戦している人のためにどんな役割を果たしているか。 ○生徒の実態に合わせて、スポットマーカの数と

	ロープくぐり	<p>することをめざす(アクティビティ集参照)。</p> <p>○スタートの合図で、輪っかになったロープを一人ずつくぐる。全員がくぐり終わるまでのタイムを縮めていく。</p>	<p>道順の複雑さを調整する。</p> <p>●タイムを縮めるためにどんなアイデアを出し、どのように合意形成を図っているか。</p>
振り返り	○活動の中でどんな場面が楽しかったか。また、友達のどんな言動に「ありがとう」を伝えたいか。		
準備物	じゃんけんカード、絆カード、短ロープ、絵本カード、フリースボール、ビーチボール、ゴール枠、スポットマーカー、輪ロープ、ストップウォッチ		
参加者の様子や感想	<p>○人数が少ないこともあり、活動中はグループになることなく、誰とでも関わる様子が見られた。</p> <p>○関わりが苦手な生徒もその子なりに友達と関わろうとする姿や、周りの生徒がさりげなくフォローし合ったりする姿が見られ、全体として楽しい雰囲気の中で活動に取り組んでいた。</p>		
指導に係る気付き	○個々の生徒にとって活動が負担になっていないか様子を細かく観察したり、支援の先生にサポートをお願いしたりしながら、全員が活動に関われるよう配慮に努めた。		